

②食の理解と継承

指 標	策定時 (H20)	中間評価 (H22)	目標 (H24)
代表的な郷土食について知っている人の割合 (五平餅、ほう葉巻き、手打ちそば、栗きんとん、 ほう葉ずしなど)	知っている割合 90%以上	90%以上を 維持	知っている割合 を減らさない
地元(町内)の農作物を1品以上 使っている学校給食日数の割合	36.6%	37.1%↑	地元農作物の使用 を増加する

郷土食について知っている割合は、90%を維持していましたが、その中で特にそば寿司、ほう葉寿司は、知っているが食べたことはないという割合が多くみられました。

《課題・今後の取組み》

- 郷土料理を家庭で作る割合は、若い世代の方が少なくなっています。そのため、木曾の独自の食文化に興味を持ち、若い世代に継承していく為の機会を増やしていきます。
- 学校給食に地場産物を活用することは、地域の自然や文化等の理解を深めるとともに、生産者の努力や、食に関する感謝の気持ちを育むことに重要です。今後も、家庭や地域だけでなく、学校給食においても地産地消が増えるよう、関係機関・団体との協力・協働を図っていきます。

③食育をすすめる環境づくり

指 標	策定時 (H20)	中間評価 (H22)	目標 (H24)
食育について意味も言葉も知っている者	45%	55%↑	70%以上
食育ボランティア人数*	92人	96人↑	増加

食育イベントなど食の情報を提供する機会が増えているため、食育の意味や言葉を知っている人の割合は増えていると考えられます。

《課題・今後の取組み》

- 食育の意義や必要性について理解を深め、さまざまな立場で自ら食育に関する活動を実践していくことが重要です。そのために、今後も食育イベントなどで、さまざまな関係機関・団体と連携・協力体制の確立を図り、色々な切り口から食育について広く知っていただく機会を増やしていきます。
- 食育ボランティアの人数は92人から96人と若干増えましたが、若い世代の参加が少ないため、今後も人材育成とボランティア活動の支援に力を入れていきます。

*木曾町食生活改善推進員、四季の会、えごまの会の合計人数。その他にも、活動している食育ボランティア団体がありましたらお知らせ下さい。